

足音

四月二十二日
石巻中一年
学年通信No.六

編集・発行
鈴木 孝明

野外日記①

目覚めてすぐに飛び込んできたのは、雲一つない快晴。

野外活動の場合、少しくらい曇っていた方が、暑くなりすぎず活動しやすいのだが、みなのお持ちがこの天気を呼び寄せたのだろうか。

出勤して、みなを待つ。

いつもより遅い八時四十分からの登校だが、早い人は二十五分くらいから学校に来はじめる。時間通り、というのほもちろん大事だけど、この早さには、野外活動にかける思いの強さを感じる。

出発式。班長主催の式の中に、程よい緊張感がうかがえる。

体育館にそろった一年生のみんな。

初めて、みんながそろった。入学して以来、百二十四人全員が、初めてそろった。この事実が何よりも、うれしかった。この野外は絶対にいいものになると強く思えた。

このご時世、とかく「集まる」ことや「そろう」ことが難しい。ここに集い、そろった百二十四人の思いを、何としてもいい形に、最高の思い出にしたいと思った。

みなはバスに乗り、県民の森へ。一足先に県民の森に到着すると、写真屋さん

が広場に段を組んでくださっていた。少しでも思い出さずいい形で残そうとしてくださっていることがありがたかった。



着いたらまず写真撮影。組んでくださった段に一年生の百二十四人が並んでいく。無言でマスクを取り、全員のお素顔がきれいに並ぶ。これもまた、初めてのことで。間違はなく最高の一枚だろう。

入所式の後、広場へ移動して昼食をとる。

親御さんが作ってくださった（自分で作った人もいたのかな？）弁当を、大自然の中で、仲間とともに食べる。自然とほころぶ笑顔。どこかで幸せな光景。こういうことが当たり前にならんとんやれる日常が、本当に尊いものだと思わためて気づく。

腹ごしらえがすんだら、次はキャンプファイヤーで行う「学級目標発表」の内容を大空のもと、クラスで考える。

話し合いが始まって三十分。なかなかどのクラスも動きがない。しかし、だんだんとクラスごとの色が見え始める。女子がそろってダンスを始めるとあるクラス。今の子は本当にダンスののみ込みが早い。すぐに全員のお動きがそろおう。級長や企画のリーダーたちの大きな声が広場に響き始める。どのクラスにも、力強く集団を引っ張っていく力のある子たちがいること

がわかる。頼もしい限りだ。自分のアイデアが容れられなかったのか、ちょっと沈んだ様子でベンチに座るクラスメート。そこにそつた「行こうぜ」と声をかけ、仲間の輪に連れていく男の子。とってもさりげない声のかけ方が、かっこいい。



全体の大きな動きの中で、後ろから、さりげないやさしさで、仲間の背中を押してくれる人もいた。

約二時間かけて、どのクラスも発表内容が決まったようだ。夜のファイヤーが楽しんだ。

次は体育祭練習。外での活動が続くが、みんなの活力は全く失われない。

難関は長縄。跳ぶのも難しいが、それ以上に回す方が難しい。きれいな弧を描けない縄に合わせて懸命に跳ぶ姿。それもまたいい。不格好でもなぜか回数が続いてしまふところもおもしろい。回数がそれほど伸びなくとも、とにかく一生懸命な姿が、美しい。

一度、宿泊棟へ戻り夕食をとる。この日のメニューはカレーライス。ちなみに、今日の学校の給食もカレーライス。学校のカレーももちろんおいしいが、こういう場所、こういう機会に食べるカレーはまた別もの。

いつもとは違うカレーだけど、いつも通りの黙食をする。これは仕方がない。でも、状況が

違って当たり前にもいつも通りができるところは立派である。

食事を終え、今日のメインイベント「キャンプファイヤー」。レク係の洗練された司会の言葉により、少し荘厳な雰囲気ではじめ、少し陽が落ちてきた山間の風景が絶妙に合う。

そして、火が灯る。火の使いに灯された三つの灯火。友情、努力、自然の火。心に灯す三つの炎。点火とともに、一気に天に向かって燃え上がった。

そして始まったキャンプファイヤー。

はじめは「猛獣狩り」。ここで雰囲気を一変させたのは司会者の話しっぷり。思いつきり、おもしろおかしく歌を響かせる。その声につられて、みんなの声が、心が盛り上がってくる。

驚いたのは、司会が変わればまた違った色を出した名司会者が何人もいるということ。突然英語を使い、まるでDJのような司会者もいた。

そんな司会にのせられて、



アブラハムの踊りも大盛り上がり。ただ、踊りが一番上手だったのは先生たちだ（そこは年季が違います）。

続いて、各クラスの学級目標発表へ。ここでも、さらに驚かされる。

全クラスの、役者がいる。

全力の「パワー」を見せる人がいる。身を呈して自虐ネタを堂々とやる人がいる。突然のおネエ口調で爆笑をさらったその後、急に真面目に学級目標に込めた意味を語る人がいる。あげていけばキリがない。

踊りとクイズでノリと笑いをとった一組。場の空気を作り出すトップバッター

の役割をみごとに果たした。

寸劇と「あたりまえ体操」でクラスの大切にしているものを伝えた二組。「当たり前」は入学式でも語られた大切なもので、ここでそれを出せるのはさすがだ。

仕込んだネタの数No.1は3組。あの準備時間でもよくもこれほどと思うほど、学校での笑顔の瞬間をたくさん見せてくれた。

国語担当の自分でも聞いたことのない四字熟語を学級目標とした四組は、その意味をしっかりと一話に仕上げた劇でやってみせた。少ない配役を、みんなでやろうとしたその感性はステキだと思う。



各クラス、それぞれの色を思いっきり出した発表が続く中、心打たれる声があった。

「○組最高！」の声があがる。この声、本当に尊い。こういうことって、教えられてやるものではない。その場の雰囲気を感じ、がんばった仲間を認め、たたえる声。声は出さなくとも、自然な拍手も無数にあった。踊りに自然に合わせる手拍子もあった。

仲間たちが踏み出した一歩を、あたたかく励ますいくつもの姿が、声が、音が、そこにはあった。

野外活動の初日。そこに見たのは、まぎれもないみんなの「本気」。できる限り、ここにあげたつもりだが、まだまだ他にもたくさん「本気」があったことだろう。

ファイヤー後、宿泊棟モリトピアへ行き、入室、入浴そして就寝。気づけば全てが時間通りのオンタイム。ファイヤーの発表時間は、クラスによってばらつきがあったが、終わってみれば最終的に時間通りだった。クラスを超えた学年としてのまとまりを、そんなところからも感じる。

そうして、今日の満足感と、明日への期待感を胸に、一日目を終えた。

(No.7へ続く)

